

編集後記：最近思うところがあって、6～7年ぶりに英会話の訓練を本格的に再開したのですが、この間の教材の変化に驚きました。7年前の時点でも、スマホ向けの英会話関連のアプリが充実しており、通勤電車の中でも片手で勉強できてすごい世の中だなと思っていたのですが、今はそこから更に発展している印象です。というのも、いわゆる生成系 AI による英会話アプリの精度が非常に優れており、それらを使った英会話訓練の効率がオンライン英会話を凌駕しつつあると感じられるのです。他にも、忘却曲線を考慮して英単語を効率的に修得できる優良アプリや、非常に質の良い YouTube 上の無料英会話レッスン動画など、私が学生の頃（スマホ黎明期）では想像もつかないほど優れた教材が格安ないし無料で入手することが出来るのです。我がことながら、驚くのも無理はありません。

英会話習得には良質な教材だけでなく、学習の継続がとても大事だそうです。その点を支えるモチベーションは学習者の目的や環境に依存するので、一概に言えませんが、私の場合は、周囲の諸先輩方から伺った留学体験談などに強く刺激を受けて、そのとき思い描いた将来像が、今もモチベーションの根幹を支えて

いるように思います。そのような体験談は「天気」の記事としてもニーズがありそうですが、過去記事を検索すると、ヒット数は思いのほか少なく、中村（1992, 天気39巻6号）による「米国の大学院に学んで」、三好（2011, 天気58巻12号）の「アメリカ大学院留学のススメ」、神山（2016, 天気63巻11号）の「論文の好みとその地域性について」が、“海外だより”として掲載されているのみでした。

これらは言うまでもなく神記事で、どれも今の学生さん達に心からお勧めしたいものです。個人的には、このような人生設計に役立つノウハウ的な情報や、モチベーションアップに繋がる諸先輩方の成功体験等がもっともっと寄稿されることを期待しており、「やさしい解説—気象学動静—」に続くヒット企画にならないだろうか、などと無責任に想像を膨らませているところです。最後に、神山（2016, 天気63巻11号）の記事でも述べられていますが、“海外だより”に寄稿する世界線（私の場合はあくまで別世界）の自分を妄想すると英語学習のモチベーションが上がるので「天気」の活用方法の一つとしてお勧めします。

（梅原章仁）